

首都圏段戸会会報

平成20年5月
第21号

発行責任者
首都圏段戸会
会長 外村 仁
編集発行人
広報担当 杉浦 嘉久

平成十九年度総会・懇親会報告

「首都圏段戸会総会にいらっしやいませんか？」

高45回 西浦瑞恵

私は、平成13年に近藤恵子先生が招聘
恩師としていらした時、在京のコーラス
部OBも一緒に歌いましょう！という企
画があつたのをきっかけに、総会に参加
するようになりました。

最近では、私と同世代の20～30歳代の参
加者も徐々に増えてきましたが、まだま
だ多いとはいえない状況です。

以前、総会に誘った友人に「岡高生は
優秀な人が多くて、私なんてとても！」
と、尻込みされてしまったこともありま
す。

確かに、同窓会は「自分の卒業後の生
き方」を再確認することになり、つい友
人と自分を比べてしまう面もあるかと思
います。



外村会長挨拶

かく言
う私も、
家庭的に
は満足し
ています
が、仕事



恩師紹介

しすぎるという本音があります。

それでも、私が総会に参加するのは、
普段の生活では巡り合えないような方々
に、同窓生であるというだけで親しくお
話させていただくことができるからで
す。首都圏段戸会が普通の同窓会と大き
く違うのは、幅広い年代の卒業生がいら
っしゃるといことです。仕事も、理
系・文系・芸

術系…と、千
差万別で、同
じ分野の人が
多い大学の同
窓会などと
は、一味違っ



岡崎混声合唱団



乾杯の首領をとる
田中厚生氏 (高8回)

た雰囲気
です。私にとっ
て首都圏段戸
会は、「いつ
か愛知に帰る
のか？その時
の仕事は？」

など、自分の何十年か先のお手本となる
方を探す場にもなっているのです。

総会のほかにも段戸サークル(同好会)と
や段戸フォーラム(ミニ勉強会)といっ
た集まりもあります。これらの会は、た
だ旧交を温め



懇親会会場

るだけの場で
はなく、むし
ろ積極的に
「明日をどう
生きるか」を
模索しあう人
材交流の場となっています。きっと素晴
らしいご縁が待っていることと思いま
す。新しい出会いの感動を味わいに、ぜ
ひ今年には総会にいらっしやいませんか？

奇しくも、今回は岡崎混声合唱団の演
奏がメインイベントで、恵子先生の指揮
で再び歌わせ
ていただくこ
とができた
た。ご縁の深
さに心から感
謝しております。



懇親会で演奏する
「タマトミカ」のミカさん

で再び歌わせ
ていただくこ
とができた
た。ご縁の深
さに心から感
謝しております。

「古希と校歌」



本年度中に古希を迎
える私達は、昭和三十
一年三月に岡崎高校を
卒業している。はから
ずも日中戦争勃発の年

に誕生し、(太平洋戦争の)戦前・戦後の貧
しさと混乱の中で少年期を過ごした世代
である。あの時から半世紀以上が過ぎた。
古希の感慨は人それぞれであるが、母校
を懐かしむ思いは共通し増幅している。

第35回首都圏段戸会に招かれた私達
は、そのことだけでも古希冥利に尽きる
上に、さらに今回は、「天下の」岡崎混声
合唱団(岡高OB・OG中心)のナマ歌
を聴くことが出来るという特典に浴し
た。

宴のフィナーレに、私達一同は混声合
唱団とともに正面演壇に上がり、いつも
のように「校歌」を合唱した。いつしか
声が震えていた。合唱団の歌唱力にも助
けられ、「岡崎高校・校歌」の素晴らし
さがあらためて身に沁みただのである。

歌詞の一番はつねに変わらぬ故郷の山
水を称え、その「うるわしき」山水の下
における過去(二番)、現在(三番)、そし
て伸びやかな未来(四番)へと展開する、
平明でありながら格調高いしらは、全
国でも屈指のものであろうと確信する。

会場と同じホテルの二階に席を移し
て、同年次で乾杯、豊かな気持ちで散会し
た。段戸会の皆さん、本当にありがとう
ございました。 高8回 近藤忠男

私の留学体験

'60年代強く豊かな アメリカへの留学

高8回 外村 仁

私の留学はもう半世紀近く前のことになる。野村證券の派遣留学生として1962年から2年間コロンビア大学のビジネススクールでMBAコースに挑戦することになった。入社3年目の秋であった。強く記憶に残っていることを2、3挙げておく。



外村 仁

当時の日本と比較してアメリカの強さや豊かさが目立つ時期であった。ケネディ大統領が就任したばかりで変革への希望に満ち溢れていた。大学の前の大通りをオープンカーで通過する若々しい姿を見て感動したものだ。2点目は留学早々、自分の英語がいかに役立たないかを痛感させられたことである。日本ではかなり自信があったのだが、学生同士の会話を聞いているとこれが同じ英語かと疑うくらいさっぱり解らない。そもそも聞いたこともないような単語や表現が出てくる。大学の語学コースも受けてみたがあまり効果なし。結局慣れるしか

対策は無く一年くらいかかったように思う。最後に留学の成果であるが、私の場合、日本の大学をサポートりにサポートたので(自慢する話ではないが)コロンビアへ行かなかつたらビジネスマンとして必要な会計学、統計学や企業ファイナンスの基礎知識が欠落したままになっていた筈である。この点は野村證券やコロンビアに感謝するところが大きい。あまり若い方の参考にならないと思うが、40数年前に苦行の末、何とかMBAを取ってきたことを知ってもらうだけで幸せである。

留学後が真の挑戦

高34回 清水勝久

留学という事で私が思うのは、本当の挑戦は留学から帰った日から始まるということです。

よほど語学に自信のある人でも、留学することは一筋縄では行きません。慣れない暮らし、圧倒的な宿題、意地悪なアメリカ人(優しいアメリカ人も一杯いるのですが、初めはびくびくして悪いところばかり目に付くものです)などで、ストレスがたまりまます。たまたま私は家族と一緒にいましたが、一人行く場合はなおさらでしょう。

しかし、留学しようと努力するような



清水勝久

人は、大変ですが必ず何とかあります。がんばってれば、必ずそれを見、評価してくれる友人もできます。少しづつ前に進んでいく実感ができ、留学して良かったと思う日が必ず来ます。そしてあつという間に帰国です。

私は成田に戻ったときのことを今でも覚えています。後悔に似た気持ちでした。数日して、会社に行きだすと、あつという間に並みの日本人に戻りました。帰国前は、将来はこうしよう、自分はどうなりたいと高ぶっていた気持ちだが、日々の慣れ親しんだ生活の中で褪せていってしまうことに焦りました。

留学に限らないのだと思いますが、挑戦や夢がかなったとき、どうしたら初心を忘れずにいられるのが、実は本当の挑戦ではないかと思えます。

三十路からの挑戦

高46回 杉浦清美

私は現在ミシガン大学ロス・スクール・オブ・ビジネスにて2年間のMBA留学中である。三十路を機にMBA留学を決意した。社費派遣制度を利用せず、全て自力で挑戦する覚悟を決めて取り組んだため、仕事と勉強との両立に加え、自分自身で切り開く未来への扉の重さに

苦悩した。多くの周囲の方々の理解と協力の上で、幸いにも西三河地区のロータリー財団より奨学金を得ることが出来、無事にMBA留学を果たした。留学経験そのものから得たものの大きさと同等かそれ以上のものを、この留学準備の間に得たと思う。

ミシガンはアメリカの中西部に位置し、デトロイトを擁する「自動車の街」であり、GM、Fordのお膝元のみならず、トヨタ、ホンダ、日産と、世界の自動車メーカーがオフィスを構えている。私は、前職の総合商社にて自動車用タイヤのアジア・アフリカ・中近東への輸出を手掛けており、28ヶ国への海外出張経験を持っているため、ミシガンに留学した暁には、是非自分のこれまでの海外経験と自動車メーカーとを結びつけたイベントを主催したいと考えていた。

また、私は前職にて98年度入社唯一の女子総合職であり、自分の後に続く女子総合職への扉を開くことにも積極的に取り組んできたため、その経験をビジネススクールにおいても活かしたいと考えていた。

これまでの海外経験と自動車メーカーとを結びつけたイベントについては、Directorとして、21日にアジア・ビジネス・カンファレンスを主催した。アジア・ビジネス・カンファレンスは、現在全米のビジネススクールで行われているが、発祥はミシガンであり、今年で18周年を迎える。今年のアジア・ビジネス・



杉浦清美

(2ページから続き)
カンファレンスには、トヨタ・ホンダ・ジェトロより講師を招聘し、盛況のうちを終了した。

女性のキャリア

ア促進イベントについては、Co-Chairとして、ミシガン・ビジネス・ウーマン・フアッション・ショーを主催した。モデルをビジネススクールの同級生の多国籍の女性の中から選抜し、人種・民族を越えた個々人の魅力を最大限に活かしたプロフェッショナルな装いを提案することを目的としたショーであり、やはり盛況のうちに終了した。

更に、毎週金曜丸一日を、現地の公立小学校のESLでのチューターボランティアに使っている。土地柄、自動車メーカーの日本人駐在員の子供が多く通っており、三河弁で楽しいひと時を過ごしている。

私は、留学経験そのものが自分の運命を劇的に変化させるとは思わない。これまで自分が何をしてきたか、これからの自分はどうか、在りたいか、全てはそこに収束すると思う。

留学と岡崎高校

高46回 朝岡大輔
留学の希望がめばえたのは、ほかでも

ない、岡崎高校で学んでいたときだった。高校で出会った師や友人は、卒業して十四年経った今でも大切だし、自分の人格や素養ともいえるべきものは、あの母校でそだったと感謝している。

インターネットが登場する少し前の時期に高校時代をすごした。入学して新しい教科書や参考書を揃えていくなかで手にした英和辞典『ジーニアス』は、今でも手元にある。その辞書の記述は、情報が少ないなか、ぼくの想像力をかきたてた。卒業する頃には、将来はアメリカに留学するのだという指針が、自分のなかにできあがっていた。

それから九年後、僕はカリフォルニアにいた。日本政策投資銀行による選抜派遣によって、パークレーのビジネススクール(MBA)の大学院生として渡米したからだ。『ジーニアス』を開くことはもうほとんどなかったが、一緒にスーツケースに入れた。

帰国して『戦略的コーポレートフィナンس』(NTT出版、二〇〇六年)という本を出版した。これがきっかけで、今年から、横浜国立大学の大学院で、MBAの大学院生にコーポレートファイナンスを教えることになった。この本は、岡崎高校の図書室に寄贈させていただ

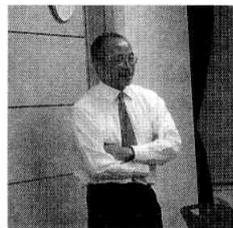


朝岡大輔

た。すでに多くの情報が簡単に手に入る時代だけれど、後輩の役に立てばうれ

就職活動・キャリアアップ支援セミナー

本セミナーは、おもに若手会員の皆さんを対象に、気軽に参加でき、先輩との交流も深められるような場として、平成18年に開設いたしました。セミナーの大きな特徴は、情報誌やWebサイトでは知ることができないノウハウがリアルに提供されることにあります。講師としてビジネスマンや起業家、あるいはアカデミック分野の専門家など、最前線で活躍されている首都圏段戸会の方々をお願いし、就職突破の秘訣はもちろんのこと、キャリア形成、さらには変化の激しいビジネスの実態についても語っていただいております。



セミナー開催は昨年までに4回を数えております。第5回は今年の1月11日に行い、「留学が私の人生を変えた！」と題して清水勝彦さん(高34回)と朝岡大輔さん(高46回)にそれぞれ講演をいただきました。清水さんはテキサス大学サンアントニオ校アソシエイトプロフェッサー、朝岡さんは日本政策投資銀行調査役と、分野、立場に違いはありますが、二人とも米国留学を通じてキャリアを形成され、専門書の執筆をはじめとして、それぞれの分野で活躍をされております。清水さんは「コンサルタントから学者への転身物語」をテーマに取り上げ、会社勤めのビジネスマンから奮起し、米国への留学、Ph.D取得、そして米国の大学で教鞭をとるに至るまでの過程について話され



ました。家族を伴った留学、さらにテニユアの獲得といった道のりは決して平坦ではなかったはずですが、当時の苦勞を微塵も感じさせず、時折ユーモアを交えながら語られました。現在は、学部、MBA、博士課程で経営戦略の授業を担当されております。一方、朝岡さんは「これがMBAだ！一運命を変える師との出会い」と題して、講演をいただきました。岡高時代に恩師(英語担当)から影響を受け、留学に憧れたこと、そして銀行入行後に留学生選抜を勝ち抜き、晴れてカリフォルニア大学パークレー校に渡ったこと、そして現地での恩師との出会い、MBA取得までを熱く語っていただきました。留学への志がすでに岡高在学時から芽生えていたことがとても印象的でした。セミナーでは、二人の執筆された専門書について紹介がございましたが、いずれも本のタイトルに「戦略的」という言葉が用いられておりました。予測のつきにくい現代社会にあって、戦略的に物事を進めることがいかに重要であるかを改めて認識させられました。なお、今回のセミナー聴講には学生から中高年層まで、幅広い世代の方々に参加をいただき、関心の高さをうかがわせました。これからもキャリア形成を目指す方々にとって興味のあるテーマを企画し、楽しい交流の場にしていきたいと考えております。乞うご期待！です。



文責 織田利彦(高26回)

首都圏段戸会に関するお問い合わせは、ホームページの問い合わせ欄、

またはメールアドレス nqd28299@nifty.com へ送信下さい。

総会・懇親会出席者の一言

安藤 逸平 (高8回)

我々高八卒業生 (S12~13生) は今年古希を迎え、5月の岡崎での同窓会に続き今回首都圏段戸会に無料招待された。古希を迎えた卒業生に寄付を求める同窓会もあると聞くが、無料招待で古希を祝っていただける幸せを感じました。この会には10年程前から出席しているが、当時中堅であった我々同級生も今や立派な老年組となった。この数年若い人たちの参加が増え、卒業年次を超えて先輩とも後輩とも気軽に話し合える雰囲気が出てきました。懇親会で先輩の昔話を聞くのも、孫のような年齢の若者と語り合うのも楽しいことです。



河原 仁志 (高27回)

男の友人を見つけるには、昔の記憶にある顔を肥らせるか、髪を減らせばよい。「おうヒトシか」という声が聞こえ、振り返ると禿げた中年が立っている。急いで記憶の糸を辿り、目星をつけ頭の中で禿げさせる。「なんだ〇〇じゃんか。久しぶり」と答える。そこに「あら、河原君、珍しい」と女の声。誰だか全く分からない。あまりジロジロ見られないので、さっと上から下まで全身を見る。顔は当てにならない。でも、分からない。ネームプレートは役立たない。焦る。そんなわけで返事は「うん…」と、極めてあいまいなモノになるのはしかたない。



五十嵐 圭子 (高8回)

古希ということでお招きいただき有難うございました。とかく母校を敬遠しがちでしたが、同期会などで新しく知り合ったり、親しく話しあえる人も増えて横のつながりが広がっています。また、会報などで先輩・後輩の皆様のご活躍ぶりや優秀さ、ご功績などを知り、誇りに思っていますが、段戸会で同期以外の方がたもお会いして、縦のつながりもできるようなになればと思っています。今回、日本一のコーラスを聞かせていただき、その時、同期の友が言った「私たちこの学校に通っていたのね」という言葉に改めて「母校」を実感しました。



鈴木 広之 (高34回)

首都圏段戸会には私にとって故郷と母校の香りがする素敵なたとえである。既に4回ほど出席させて頂いているが、歳を重ねるごとにその意味が増してくるような思いだ。温故知新とはよく言ったもので、自身の過去を訪ねながら、常に新しい発見があり新しい出会いがある。既に自分の世代の子供たちが高校に通う歳になりつつある。多くの先輩が道を拓き、多くの秀逸な後輩たちが岡崎高校の名を世界に轟かせている。自分のことのように誇らしい気持ちになる。自分がどんな立場になろうが、岡崎高校卒業生の矜持を忘れずに、社会に少しでも貢献できるように、改めて精進を誓う、それが首都圏段戸会だ。



南郷 孝 (高19回)

段戸会に出席したところ、故郷の息吹を感じ同族感や近親感に包まれ、言い知れない安堵感を持ったのは何故でしょうか。二十年程の違ひのある方が「私は同じ野球部でした」とわざわざ探して近づいて下さり、もうこの人の為になんか助けになるような事はないか、どんな仕事をしているんですか、など、失礼なことを親族にでも話すような気分になって尋ねてしまいました。いいものですね。佐賀には「腐ってもチャア(鯛のこと)ふうけても(馬鹿のこと)佐賀もん」という言葉があるそうですが「ふうけても岡高もん」と私も言われるよう心を引き締め直されました。



辻内 尚子 (高53回)

今回はコーラス部OB・岡崎混声合唱団の一員として演奏させていただきました。みなさんの温かい拍手に、高校時代から現在まで、多くの卒業生の方々に支えられて活動できているのだと実感しました。懇親会では、初めてお会いする先輩方が気さくに声をかけてくださいました。私は現在社会人一年目で仕事に関して不安なことも多いのですが、様々な分野で活躍している先輩方からアドバイスや激励の言葉をいただき、とても心強く感じました。高校三年間を岡高で過ごせたこと、岡高卒業生の一人であることを改めて幸せだと感じたひとときでした。



岡崎混声合唱団

岡高OB・OGを中心として近藤先生のもと結成された合唱団で、今回は地元岡崎方面から16名(内OB・OG13名)が上京、それに東京在住のOB・OG15名が加わって総数31名の出演でした。パート別では、ソプラノ8名、アルト5名、テナー11名、ベース7名の構成で当日は次の9曲が演奏されました。

1. ふるさと
2. 赤とんぼ
3. いざたて戦い人よ
4. さくら
5. 千の風になって (東京支部メンバーのみ)
6. 水のころ
7. 出逢い
8. Everytime I feel the Spirit
9. 岡高校歌 ①混声バージョン ②会場全員が参加して



「タマトミカ」

総会で素敵な音楽を演奏してくださっている高40回の内藤美佳子さんのデュオ「タマトミカ」。これまでもライブ活動やCM音楽をてがけ活躍しているふたりですが、2/20にメジャーデビューしました(拍手!)。個性あふれるふたりの息のあったピアノ&ビブラフォンから紡ぎだされる音楽は、ある人には癒しのひとときをもたらし、ある人にとっては背中を支える励ましの言葉であり、またある人には夢を与える力をもっています。是非、新作アルバム「switch」で「タマトミカ」の世界を堪能し、応援してください。(「タマトミカ」オフィシャルサイトはこちら→<http://www.tamatomika.com>)



趣味の会活動

段戸囲碁会

＜段戸囲碁会の対時習館高校対抗戦4連覇！＞

去る1/20に第4回岡崎高×時習館高対抗囲碁大会が日本棋院本部（市ヶ谷）で行われ、岡高からは山本治六段（高1）、安藤逸平1級（高8）、本多慶成五段（高11）、新実昭治初段（高13）、藤田訓弘六段（高13）、小峯慶三五段（高16）の6名が出場しました。結果は18勝10敗で岡高の4連覇でした。全勝の山本六段、新実初段は次回からそれぞれ七段、二段に昇段しました。この“段戸

碁会”は首都圏段戸会の趣味の会としては最も歴史の古い会で、高1～高23、3級～七段、男女総計25名が加入しています。老若男女に関係なくボケ防止に最適です。初心者大歓迎です。入会希望者は藤田まで。



文責：高13回：藤田訓弘

(TEL：045-892-4479、E-mail：kfujita@muc.biglobe.ne.jp)

段戸句会

段戸句会は卒業年度や住まいの場所を問わず岡高同窓会員の誰でも参加できます。

毎奇数月にネットで投句します。この会の最大の魅力は俳誌「かつらぎ」の新芽集選者の平田冬か先生（旧姓仙波環、高14回卒）の選と初心者にも解りやすい懇切丁寧な講評です。句会の結果はHPで誰でも読むことができます。

日常の生活や季節の変化で感じたことを五七五にまとめること

は楽しく奥深いものです。俳句を始めてから暑さ寒さ雨もよし、停滞の中でさえ今迄気付かなかったことを発見して、是また良しとの声がかれます。皆様のご参加を待っています。



写真は昨年冬か先生と新宿御苑を吟行したものです。

文責：高13回：本多正之

段戸華教室

段戸会副会長でもあり、華の作家として、日本はもとより海外でもグローバルに活躍中の水谷鏡子さん（高14回）にご指導をいただいております。昨年は「ハーモニー」をテーマに「和との調和」「ガラスとの調和」など、斬新なアレンジメントをレッスンしていただきました。また、首都圏段戸会総会のテーブル装花も好評でした。少人数で、初めての方にもわかりやすく丁寧に教え

ていただけます。お花に囲まれた素敵なひと時をご一緒に体験なさってみませんか？レッスンの様子はHPにも掲載されております。皆様のご参加をお待ちしております。

文責：高45回：西浦瑞恵



段戸「山の会」

山の会は“ユックリペース”で登山することを基本に、春・秋の年2回実施しています。大学生からシニアまで多くの方が参加し、登山と登山後の温泉などを楽しんでいます。2007年度の春は校歌にも歌われる段戸山に登頂し、記憶を振り絞って山頂で校歌を斉唱しました。下山後は足助に宿泊しふるさと探訪の旅を満喫しました。秋は、高村光太郎の智恵子抄に登場することで有名な

安達太良山を目指し、台風一過のもと山頂からの素晴らしい景色と絨毯を敷き詰めたような安達太良山系の紅葉を楽しみました。初心者でも参加できますので興味のある方はぜひご一報ください。



文責：高34回：板谷敏正

段戸音楽会

「音楽を愛する人」、それが唯一の会員資格です。「音楽」は人の心に潤いを与え、世代を超えたコミュニケーションを可能にします。総会でのバックミュージック演奏は若手メンバーの加入を得て、堂に入ってきたとの評判です!? 国内外で活躍するOB・OG音楽家情報、音楽コンサート・イベント情報もお伝えします。総会でのオーケストラ演奏を野望にメンバー大募集中!!プロで活

躍する人、セミプロの腕前の人、趣味として続ける人、かつて凝っていた人、楽器を始めたばかりの人など、多様なメンバーでお待ちしております。



文責：高42回：長野麻子

2007年総会での協賛3社に感謝・御礼申し上げます。

- ①合資会社 柴田酒造場（代表社員 柴田秀和／高31回）：2006年に続き、ふるさとの銘酒「孝の司」の試飲会は今年も大人気。四年連続全国金賞受賞の「神水仕込（かんずいじこみ）」を筆頭に毎年6種類の美酒に酔いしれ、同窓生との思ひ出話に華が咲きました。
ご注文は「通信販売」URL <http://www.kounotsukasa.co.jp/>からどうぞ。
- ②合資会社 八丁味噌（代表社員 早川久右衛門／高21回、専務 早川幹男／高25回）：カクキュー「赤出し味噌」のお土産に、老いも若きも皆さん大喜び。2005年より首都圏段戸会HP「故郷の名産品」として会員割引特典がスタート。

ご注文は「通信販売」URL <http://www.kakuq.jp/shop/shopping/>から（FAXでも可）。

「お客様情報入力」ページ最下段「通信欄」に「段戸会会員」と記入すれば、10%割引+消費税免除です。

- ③㈱文化工房（社長 永井寛／高23回）：プロカメラマンを派遣して頂き、出席者の皆さんを撮影。お陰で懐かしい笑顔が、首都圏段戸会HP 写真集で見られます。「文化工房」の詳細は <http://www.bun.co.jp/> をご覧ください。

※総会協賛をいただける卒業生の方は、Home Pageの事務局宛メールを使用して、お申込みいただければ幸いです。

本年度の「総会・懇親会」は11月2日(日)!

★第36回(2008年度)「総会・懇親会」開催予定★

- ・日 時 2008年11月2日(日)
午後1時30分～午後5時
- ・場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
- ・住 所 東京都千代田区九段北4丁目2番25号
- ・T E L 03-3261-9921

平成20年度世話人

(高2回)服部 登	(高19回)都築正行 福山 透	(高40回)大田 武
(高3回)丹羽 鼎	村木央明	(高41回)磯谷陽子 平山健二
(高6回)有馬弘政	(高20回)天野隆太郎 辻村貴典	(高42回)長野麻子
(高7回)村上澁子	(高21回)清水照雄 丸川美雪	(高43回)八田益之 鴻池 奏
(高8回)杉浦嘉久 外村 仁	山田俊文	(高44回)安藤 穰
(高10回)木村富司雄	(高22回)青山裕治 上田洋子	(高45回)筒井貴之 西浦瑞恵
(高11回)中根 淳	(高23回)高橋俊光	(高46回)朝岡大輔
(高12回)鶴田文男 成瀬 徹	(高25回)戸田讓三	(高48回)荻野友佑子
(高13回)藤田訓弘 本多正之	(高26回)織田利彦 山口知子	(高49回)三田桂子
(高14回)磯尾 進 水谷鏡子	(高27回)高木正己 山崎正枝	(高51回)加藤千晴 細田晃展
(高15回)満江信之	(高30回)木村美穂子 米津智徳	(高52回)今泉貴雅 加藤祐貴
(高16回)鈴木貞雄	(高31回)畔柳博史 高原正之	矢嶋裕子
(高17回)伊与田正彦 佐伯寛子	(高32回)堀内友二	(高54回)安藤美保 山田英嗣
山田博子	(高34回)板谷敏正 井上由美子	(高55回)中島佑実
(高18回)石原荘介	(高35回)竹尾 誠	(高58回)門池金八
	(高37回)市川智基	

第3回 世 話 人 懇 親 会

新しく世話人を引き受けてくれた方の歓迎会、この春に転勤で世話人を退任される方の送別会、退院した方の快気祝い等々がない交ぜになった第3回世話人懇親会が、3月17日(月)に有楽町の東京バンバン(Vin Vin)で、2年振りに開催された。

最年長の服部前会長(高2回)から最年少の門池さん(高58回)まで、過去最多の32名(世話人の半数以上)が出席。

最初は少し改まった感じがあったが、この春愛知県に戻るようになった藤井さん、ロンドンに赴任する板倉さんの挨拶が終わると、藤田さん(高13回)から「愛知県庁支部、ロンドン支部を作ってくれ!」と檄が飛び、新任世話人の自己紹介になると、質問が飛んだり、他己紹介が始まり、アツという間に固さが取れ、後は、時は違っても同じ学び舎で多感な時期を過ごした共通点を持つ仲間同志、年次の壁もなく一つに溶け込み、日頃世話人会であまり話すことのなかった方とこの機会に話をしようと、自由気ままに席を移動。

高校時代や故郷の思い出ばなし。夢中になって進めているボランティア活動の紹介や相談。先輩から若い世話人への色々なアドバイス(迷惑だったかもしれませんが…)。なかなか聞くことのできない専門的な話に耳を傾ける「にわか勉強会」や「異業種交流会」等々。

幾つかのグループに分かれて話が盛り上がり、それがまた何時しかくずれて、次の輪ができる、まるで万華鏡のよう。東京にいることを忘れてしまうひと時でした。

最後は、時間超過に痺れを切らしたお店の方からマイクを渡され、水谷副会長(高14回)の中締め挨拶。その後も、チョットお茶でも? もう一杯どうですか? と、楽しいひと時の余韻が、会場の外に広がって行きました。

文責:村木央明(高19回)



トピック!

「首都圏段戸会総会・懇親会」で、4年連続司会・進行の大役を引き受けているのが井上由美子さん(高34回)です。会に出席された皆さんも、あの軽妙な語り口と美声は誰かな?と思われた方も少なからず…、それもその筈、彼女の本

業は、フリーアナウンサー、カラーリスト、ウオーキングスタイルリストと三つの顔を持つ美のリーダーです。段戸フォーラムでも講師として、就職を控える岡高の後輩たちに美しい身のこなしや語りを教示しています。今秋の総会もお楽しみに。

